

七転八起

誰かの為に生きてこそ、

人生には価値がある。

(アインシュタイン)

第 5 号

2019 年 8 月 21 日発行

まだまだ厳しい残暑が続きますが、夏休みも明け、学校生活がはじまります。皆さんは高校生としての最初の夏休みをどのように過ごしたのでしょうか。

さて、本校は中学校までとは違って2期制を採用していますので、夏休みが終わってもまだ前期は終わっていません。前期期末考査・校内競技大会などの行事が9月に控えています。テストも行事も念入りの準備が必要です。その準備に成功のカギが隠されているのかもしれません。何事にも一生懸命に取り組み、良い成果をあげることができるよう、まずは1日も早く普段の学校生活を取り戻してください。

第2回基礎力診断テスト実施

夏休み中の登校日、8月19日(月)に基礎力診断テストが行われました。今回のテストは、4月に続き2回目となります。夏休みの宿題として、One-Week トライアルという国数英の問題冊子が配布され、その中から6割程度、準拠した問題が出題されます。

また、この試験は外部模擬試験の1つですので、校内だけではなく、全国的な偏差値で個人の学習能力を測ることができます。

来月には結果が出ます。それを見ながら全国的な位置を把握し、反省するべき点のある人は夏休みの過ごし方も含め、しっかりと反省して、今後の学習活動にいかしてほしいと思います。

なお、基礎力診断テストは、冬休みと春休みの後にも実施されます。

未来講演

7月4日(木)に㈱リクルートマーケティングパートナーズまなび事業本部より比佐勝海様を講師にお迎えし、未来講演「未来を想像してみよう! 未来辞典DREAMの活用」が開催されました。

今回の講演は、5、6月に総合的な学習の時間で取り組んできたテーマ別学習「夢・目標」の最終回としての位置づけもありました。これまで、担任4名が各クラスを回り、「夢・目標」のテーマ別学習を行ってきましたが、同じテーマを外部講師の方から学ぶという貴重な機会となりました。

講演の目的は、複数の進路アプローチの方法を知ること、主体的な進路選択に向けて意識を高めることと、働く大人のリアルな進路体験に触れることで、進路選択の幅を広げることにあります。

当日は、皆さん真剣な眼差しで講師の先生のお話を聞き、「未来の予習」そんな時間となりました。

また、資料として配布された「未来辞典DREAM」には、実社会で働く50人の「仕事人インタビュー」が掲載されていて、自分が好きなことや興味のある仕事人探しができる素晴らしい資料本でした。

これを1学年では有効活用したいと考え、夏休みの宿題の1つにしています。宿題は「未来事典に登場するあらゆる業種で活躍する仕事人50名の中から、自分が興味をもった仕事人、10名の記事を読むこと。そして、その中の3名について、オレンジ色のワークシートに感想を書き、その職業について調べ学習すること」です。

さらに、皆さんの夏休みの学びを深めるために、「未来事典 MOVIE」を紹介します。この「未来事典 MOVIE」は未来事典で紹介された方々を含む77名の働く大人へのインタビュー動画です。働く大人の高校生の頃の夢を軸としてインタビューに答えていて、現在の仕事のやりがいや今後の目標などについても語られています。

パソコンやスマホなどインターネット環境があれば、簡単に見ることができます。ぜひ、視聴してみてください。

今後の予定

日付	予定
8月 26日(月)	安心メール登録利用同意書 提出締切日
30日(金)	私学請願書署名 提出締め切り日
9月 19日(木)	前期期末考査(25日(水)まで)
26日(木)	校内競技大会(27日(金)まで)
30日(月)	前期終業集会

保護者の皆様へ

日頃より、本校の教育にご理解、ご協力くださいますありがとうございます。夏休みを終え、本日、生徒たちは元気に登校しました。特に真っ黒に日焼けした運動部の生徒の姿が印象的でした。

さて、夏休みの直前に生徒を通じて、「一斉メール配信システム」についてのお便りを差し上げております。つきまして、是非ともご登録のうえ、同意書の提出をお願いいたします。

～「学法福島安心メール」登録・利用同意書～

提出期限：8月26日(月)

TKPコラムVol.6

「勝者は絶対に諦めない」

学年主任 末松孝治

6月の総合的な学習の時間は、テーマ別学習が中心に行われました。テーマ別学習とは、4名の教員（1学年担任）が4クラスを順に回り、テーマに即した授業をするというものです。テーマは「夢・目標」でした。今回は私の授業の最後にお伝えした「ピート少年」の話を振り返ってみましょう。

6歳のピート少年はお父さんとヤンキースタジアムで野球を観戦していました。9回裏、ヤンキースの攻撃。ヤンキースは1対0で負けていますが、ワンアウト、ランナー一塁。一発出れば逆転のチャンスです。ピートは興奮して言います。「ねえ、パパ見てて！次の打者がきっとホームランを打つよ！！そして、ヤンキースが勝つよ。」その結果は…。見事ホームラン！

ピートは夢見心地で、「ねえパパ、僕でもメジャーリーガーになれるかな？」とうつむきながら言います。

お父さんは微笑んで言いました。『ああ、なれるさ。最後まで諦めなければ』

それからピートの猛練習が始まりました。しかし、はじめは誰からも仲間に入れてもらえませんでした。それでも、一人で黙々と練習を続けました。

そして、中学を卒業したピートは、プロを目指し、野球学校へ入校します。

ピートは誰よりも早く練習場に行き、誰よりも遅くまで練習をしました。だから、誰よりも野球がうまくなりました。

アメリカのプロ野球は、下から「Dリーグ」「Cリーグ」「Bリーグ」「ルーキーリーグ」「Aリーグ」「AAリーグ」「AAAリーグ」そして、その頂点に「メジャーリーグ」があります。

ピートの姿に感動した野球学校の先生は、Dリーグの監督を集め、彼を見てもらいました。しかし、結果はどこの監督も契約をしてくれませんでした。

野球学校を卒業したピートは、腐ることなく黙々と練習を続け、アマチュア選手として活躍し、24歳の時、ニューヨークのセミプロ球団「ブッシュウィックス」から声がかかりました。彼は「大好きな野球ができる」と喜んで入団しました。セミプロ球団で、彼は素晴らしい成績を残しました。1942年、その活躍を見ていた、Cリーグの「トロイスリーバーズ」という球団の監督がピートを大抜擢し、打率3.81という素晴らしい成績を残しました。この大抜擢にも、おごることなく努力を続けるピートに、次々と幸運の扉が開かれていきました。

1943年Aリーグの「メンフィス・チックス」に昇格し、翌年、AAAの「サザン・アソシエーション」で、彼はリーグのMVPを獲得しました（打率333、盗塁68）。そして、ついに夢が叶う時がやってきました。1945年メジャーリーグの「セントルイス・ブラウンズ」がピートと契約を結びました。

初めてメジャーリーグの打席に立ったピート。第一球目、空振り。第二球目、空振り。第三球目、空振り。結果は、三球三振でした。

その時です。観客が一斉に立ち上がり、ピートに鳴りやまない拍手を送り続けました。

なぜでしょうか？

それは…。彼には右腕がなかったのです。

片腕のメジャーリーガー、ピート・グレイは、6歳のとき、列車から転落する事故で利き腕の右腕を失いました。絶望しかけた息子に父親は力強く励まし続け、ピートもメジャーリーガーになるという夢を諦めませんでした。

左手一本で球速に負けないようにする為、重くて長いバットを使って練習しました。しかし、そのためには、さらに強い左手の筋力を必要とします。ハンデキャップを克服するために涙ぐましい練習を続けてそれを身につけたのです。

仮に打撃が良かったとしてもメジャーリーガーになれません。打撃にもまして大変だったのは守備でした。フライをとるときにはグローブを胸に押し当てて捕球しました。指と右腕の付け根を使ってグローブをはずし、右脇にかかえると同時に左手でボールをつかんで投球しました。ゴロの場合は、捕球後、ボールを軽く空中に跳ね上げ、その間に右肩の付け根に挟んだグローブから左手をはずし、その手でボールを掴み、投げかえたのです。

手を深くグローブに入れていたのではすばやく抜くことができないので、わざわざ指の短いグローブを作って、半分しか手を入れませんでした。しかも、少しでも手の感触をよくし、手の出し入れを滑らかにするために、グローブの中の詰め物はほとんどなく、革だけに等しかったそうです。

そして、ピートはとうとうその片腕で夢をつかんだのです。片腕で見事に打ち、片腕で守るピートのプレーは、見ている人々に感動を与えました。

彼は少年時代のある時こう言われたことがあるそうです。

「両方の腕があっても、野球をするのが難しいのに、片腕で野球なんかできるわけがないだろう」と。それでも諦めることなく、ピートは夢に向かって練習し続けたのです。

最後にピート・グレイの座右の銘を紹介します。

A winner never quits. 『勝者は絶対に諦めない』

YouTubeで「ピート・グレイ」を検索すると当時の画像がでてきます。鳥肌が立ちます。

